

英語複合語 *N-s-man* の構文形態論的分析

——属性叙述と *spokesman*

島田 翔平 (東京大学大学院)

showheyhey713@gmail.com

1 はじめに

英語における特定の職業・身分・属性を有する人を指す複合語 *N-s-man* には, (1) のような例が挙げられる.

- (1) *batsman* 「クリケットの打者」, *craftsman* 「工芸家, 名匠」, *kinsman* 「血縁者」, *marksman* 「射撃手, 射撃の名手」, *salesman* 「販売員」, *steersman* 「舵手」, *townsman* 「都会人, 町民」

(1) で示したような *N-s-man* 型複合語については先行研究があり, 古くは Bergsten (1911: 100–119) が *N-s-man* を属格表現 *N.GEN man* 由来の例として挙げているほか, Stahlke et al. (2007: 11–12), Lieber (2011: 368) が, *N-s-man* の意味を属格由来の接辞 *s* が本来の機能を失った例としてとりあげている. しかし各形態素の合成として複合語を捉える従来の形態論では, 接辞 *s* の機能にばかり関心が向けられ, *N-s-man* 型複合語全体の意味, 新規の *N-s-man* 型複合語の発生, 複合語 *N-s-man* 全体と *N* 部の名詞の意味的關係などについて, 議論が不十分であった.

そこで本発表では Booij (2010) の構文形態論によって *N-s-man* 型複合語を分析し, 次の主張を行う.

- レキシコンでは構文スキーマおよび語が抽象度によって階層構造をなす.
- 構文スキーマ [*N-s-man*] が1つの単位として機能することと, *man* 部が自由形態素 *man* の性質を保持することは同時に両立しうる.
- 例外的な形式を取る語も, スキーマの拡張としてレキシコンの体系に組み込むことができる.

具体的には以下の順序で議論を進める.

■第2節: オンライン英語辞書 Oxford English Dictionary Online (特別な事情がない限り以下 OED と略す. 参考文献欄も参照) を用いた調査により, *N-s-man* 型複合語を収集する. 次に語を意味によって分類し, *N-s-man* 型複合語全体に共通する意味を考察する.

■第3節: *N-s-man* 型複合語に共通する形式と意味のペアを構文スキーマとして捉え, レキシコンにおいて *N-s-man* 型複合語の意味が階層構造をなしていることを示す.

■第4節: 構文スキーマ [*N-s-man*] が1つの単位として振る舞う一方, *man* 部は単独語としての分析可能性を有することを指摘する. 特に *N-s-man* と系列的関係にある新語 *N-s-woman*, *N-s-person* などが発生する過程を, レキシコンにおける構文スキーマの拡張によって示す.

■第5節: *N-s-man* の *N* 部に動詞の過去分詞形を代入した *spokesman* は例外的語形を有する. 語形 *spokesman* が英語に定着したメカニズムを, 影山 (2009) による「属性叙述」の考え方を援用しつつ, 構文スキーマの拡張によって説明を試みる.

2 N-s-man 型複合語の意味の分析

2.1 節では、まず英語における N-s-man 型複合語が属格表現に由来することを提示する。2.2 節では、属格表現を由来とする N-s-man 型複合語の収集について述べる。そして 2.3 節では、収集した語がどのような意味的特徴を有するかを論じる。

2.1 N-s-man の由来

Bergsten (1911) は、多くの N-s-man 型複合語の由来を、古英語における属格を用いた統語的表現 N-es man に由来することを指摘した。

(2) *kinsman* 「血縁者」 < *cynnes mann* 「親族の人」

(3) *steersman* 「舵手」 < *steores mann* 「舵の人」

(2) では *cyn* 'kin' の属格 *cynnes* により *mann* 'man' の性質が叙述されており、この句 *cynnes man* 全体が複合語 *kinsman* へと変化した。(3) についても、句 *steores mann* が複合語 *steersman* へと変化した。

2.2 OED を用いた N-s-man 型複合語の収集

本発表では、Web 上で利用可能な英英辞典 Oxford English Dictionary Online の見出し語より N-s-man 型複合語を収集した。ここでは 2.1 節の議論を踏まえ、OED の語源欄に属格由来との記載がある N-s-man のみを対象とした^{*1}。調査においては、ワイルドカード検索により語形が -sman で終わる見出し語を検索し、ヒットした見出し語のうち対象となる語をピックアップした。

収集の結果、分析対象の語は 118 語となった^{*2}。OED に掲載されていた語源ごとの見出し語数を表 1 に記す。なお、第 5 節で取り扱う *spokesman* は OED にて他の N-s-man 型複合語のアナロジーとの記載があったため、N 部が名詞ではない例外的語形を有するものの表 1 では (c) に含めた。

表 1 OED に記載されている語源によって分類した N-s-man 型の見出し語 118 語の内訳。

(a) 「属格由来」と記載	101 語
(b) 「属格由来の可能性が高い」と記載	2 語
(c) 「アナロジーの可能性が高い」と記載	5 語
(d) 「属格もしくは複数形由来」と記載	8 語
(e) その他	2 語 ^{*3}

^{*1} OED によれば *man* が主要部かつ語末が *sman* の複合語には、属格表現由来の語のほか次の 2 パターンの語がある。(i) *s* で終わる名詞単数 + *man* (ex. *busman* 「バス運転手」) (ii) 複数語尾 *-s* を伴う名詞 + *man* (ex. *tatsman* 「サイコロ賭博師」) なお (ii) に属する複合語には属格表現由来とも解釈しうる語が少なくないが、ここでは OED の記載にしたがう。

^{*2} うち 4 語については 1 つの語形について複数の項目が建てられているが、語形 1 つあたり 1 語としてカウントした。また見出し語のうち、既存の N-s-man 型複合語に特定語を付加するなどして生成された可能性が高い語 (ex. *in-fieldsman* 「内野手」, *handicraftsman* 「手芸作家」), 連語表現 (ex. *national guardsman* 「州兵部隊 (*national guard*) に所属する者, 州兵」) については考察対象より除外した。ただし *marshal's man* 「高官 (*marshal*) のもとで働く者」については、*marshalsman* とのスペルも多く見受けられるため考察対象に含めた。

^{*3} *draughtsman* 「製図師」の another spelling として生成された *draftsman* 「製図師」と、フランス語由来の *bosman* が N-s-man の枠組みで再解釈されたことによる *bowsman* 「船首 (*bow*) に最も近いオールを漕ぐ人」が挙げられる。

2.3 N-s-man の意味の分類

ここでは、2.2 節で提示した方法により収集した N-s-man 型複合語を意味ごとに整理する。ただし多義語の分類にあたっては、主要な意味に着目してカテゴリーを決定した。

まず、N-s-man 関係には、専門的スキルを有する職業に関するものが目立つ。なお「職業」は「社会全体における役割、所属」の一種として捉えることも可能である。

■**職業:** *craftsman* 「職人」、*draughtsman* 「製図師」、*tradesman* 「商人」、*huntsman* 「猟師」

また、特定の業界や職場における専門的職務に関する語も多い。

■**組織における担当職務:** *salesman* 「販売担当者」、*spokesman* 「意見を公表する者」、
brakesman 「電車などのブレーキ担当」、*steersman* 「船の操舵手」、
groomsman 「結婚式の花婿付添の男性」、*bridesman* 「結婚式の花嫁付添の男性」⁴

N-s-man 型複合語の中には、ある地域の居住者を意味する語も見られる。なお居住地を「地理的所属」と捉えれば、職業などと同じく「社会全体における所属」の一種と考えることができる。

■**地理的所属:** *townsman* 「都会人、町人」、*landsman* 「陸上生活者」、*frontiersman* 「国境近くに住む人」

職業や地理的所属以外にも、ひろく社会的集団への所属に関する語が存在する。

■**社会的所属:** *kinsman* 「親族」、*tribesman* 「部族構成員」

職業であると断定することは難しいが、ひろく個人の特殊スキルに着目した語も見受けられる。特に一部の社会においては職業と言える可能性がある。

■**技能:** *talesman* 「語り手」、*marksman* 「射撃手」、*swordsman* 「剣士」

個人のスキルだけでなく、性格に着目した語も見受けられる。ただしここで挙げた語はいずれも現代語での使用頻度がきわめて低い上、*mindsman* については技能と捉える余地がある。

■**性格:** *truthsman* 「まことの人」、*mindsman* 「聡明な人」

そのほか、クリケットなどの球技におけるゲーム中の役割に関する語も存在する。ここまで挙げたカテゴリーの中では「組織に置ける担当職務」に近い。

■**球技:** *fieldsman* 「野手」、*batsman* 「打手」

N-s-man 型複合語は、N 部に所属、行為、道具、性格などを意味する名詞を取り、N-s-man 全体では「N に関連する特性 Y を持つ人」を意味する。たとえば *bat* 「球技の道具であるバット」を N 部に持つ N-s-man 型複合語 *batsman* は、道具 *bat* に関連する特性をもつ人、すなわち「打者の役割を果たす人」を意味する。

以上の議論を踏まえ、N-s-man 型複合語にひろく共通する「基本的意味」を次のように分析する。

N-s-man 型複合語の基本的意味:

集団や組織の中で N に関係する特性 Y により識別される人 (A man identified by his/her trait Y related to N)

² このほか OED の見出し語には *helmsman* 「操舵手」がある。*helmsman* の語源の記載はなかったが、属格由来との記載があった *steersman* と意味がごく近いことなどから属格由来と考えられる。

³ 「転舵手」の意味で用いられる場合は「各交通手段における担当」カテゴリーに属する。スペースの関係上そのほかの多義語についての説明は省略する。

⁴ OED には *groomsman*, *bridesman* のほか、N-s-man に似た構造を持つ *bridesmaid* 「花嫁介添人」も登録されている。ただし *bridesmaid* については、NN 由来の *bridemaid* と 属格表現由来の *bridesmaid* の 2 つの語形が現在でも存続している。

3 [N-s-man] スキーマの構造と意味の扱い

本節以降, *N-s-man* の意味および形式を, Booij (2010) の構文形態論により分析する. 構文形態論では, 形式と意味のセットである構文スキーマを用いて語を分析する.

第2節で取り上げた *N-s-man* 型複合語の形式および意味は, 次の (4) で示す構文スキーマによって分析される*5.

$$(4) \langle [[x]_{Ni-s-[man]_{Nj}}]_{Nk} \leftrightarrow [A \text{ man}_j \text{ identified by his/her trait } Y \text{ related to SEM}_i]_k \rangle$$

構文形態論では語の意味の共通点をスキーマ全体に帰属させるため, 語の特定の構成部分に意味を担わせずとも意味を扱うことができる. たとえば 2.3 節で示した *N-s-man* 型複合語に共通する意味は, 接辞 *s* の派生的意味などではなく, (4) のスキーマ全体に帰属するものととらえられる.

構文形態論ではレキシコンのあり方として, 抽象的な構文スキーマを上部に, より具体的なスキーマおよび語を下部に配置した階層構造を想定する. ここでは意味についての階層構造を考える. *N-s-man* 型複合語より抽出した (4) のスキーマは, より具体的な意味を含むサブスキーマを下位に持つ. それぞれのサブスキーマはさらに細分化されることもある. 以上の議論を踏まえ, 2.3 節で分類した *N-s-man* の意味がなす体系を図1で模式的に示す.

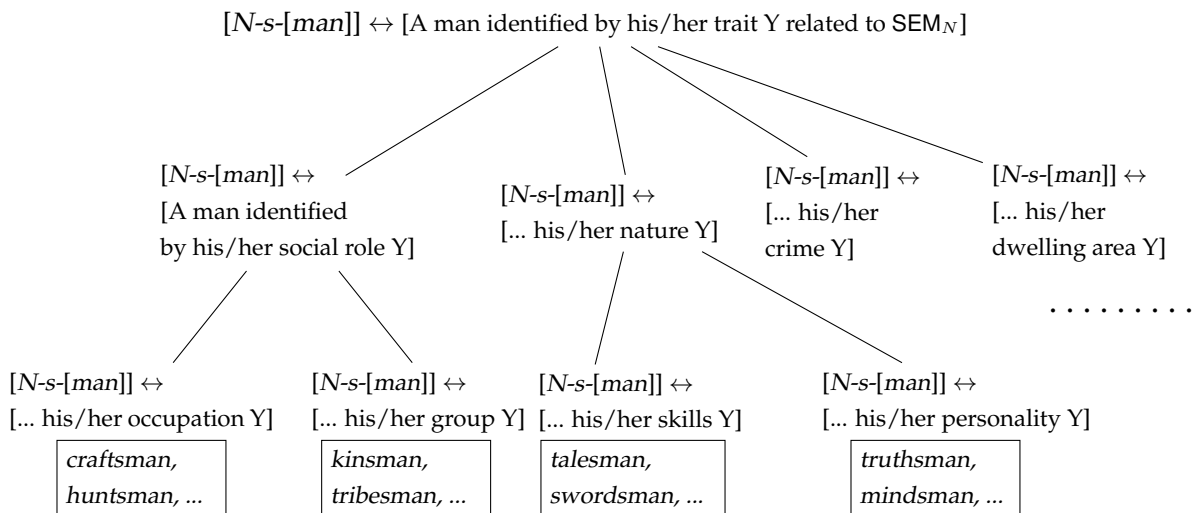


図1 レキシコンにおける [N-s-man] の意味の階層.

いったん話者が (4) のスキーマおよびそのサブスキーマを認識すると, *N-s-man* 型の新規の語は 2.1 節で提示したような統語表現を経由することなく, [N-s-man] スキーマから直接発生するようになる.

4 [N-s-man] スキーマにおける *man* の役割

第3節では主に意味の観点から, (4) のスキーマが1つの構文として振る舞う様相について論じた. このとき, *N-s-man* における *man* 部分を単独の語として分析することは難しいものと思われる.

しかし実際には, *N-s-man* における *man* 部の独立性が高いことを示す現象も見受けられる.

(5) *sportsman* > *sportswoman*, *sportsperson*

(6) *sportsman and woman* 「スポーツをする男女」

*5 構文形態論ではスキーマを ([形式表示] ↔ [意味表示]) と表記し, 形式と意味の結びつきを表す. 複合語の構成要素には識別記号 (*i, j, k*) を割り当て, 形式的要素と意味的要素の対応を表示している. 形式表示における記号 *N* は名詞を表すラベリングである.

(5) で示した造語においては, 男性を意味する *man* に対応する語として, 女性を意味する *woman*, 男性・女性の両方を含む *person* を, *N-s-man* の *man* 部に導入している. (6) の *sportsman and woman* では, *and* が接続する対象が, 複合語内の *man* 部と単独の語 *woman* のように見受けられる. このように, *sportsman* における *man* 部は, 複合語の一部でありながら単独の語 *man* として分析されている可能性がある.

Booij (2010: 55–66) は複合語のスキーマ全体で意味を持つことと, こうした一部分が単独の語としても分析しうることは両立するとの立場を取る. 構文形態論では (5), (6) で見た現象も, *man* 部が単独の語 *man* として分析しうるためと無理なく説明できる.

なお, (5) で提示した造語プロセスは, レキシコンにおいてスキーマの拡張という形で説明される. 具体的には, $[N-s-man]$ の上位に, 人を意味する語 N_H を組み込んだより抽象的なスキーマ $[N-s-N_H]$ を立て, そのサブスキーマとして $[N-s-man]$ と系列的関係 (paradigmatic relation) にある $[N-s-woman]$, $[N-s-person]$ が存在するものとする*6. これらのスキーマはレキシコンにおいて, 図2に示すような階層構造をなす.

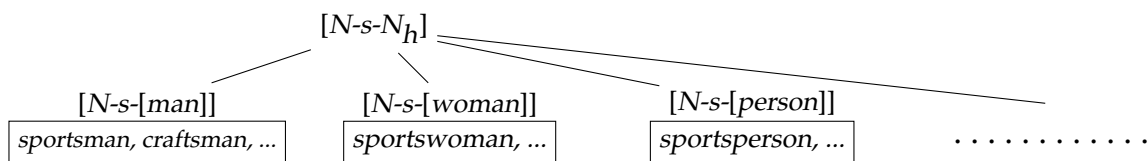


図2 $[N-s-man]$ と系列的関係をなすスキーマの体系.

5 例外的語形 *spokesman* の発生と $[N-s-man]$ スキーマの拡張

OEDによれば, *spokesman* の初出は1519年で, 当初は「通訳者」を意味した. 「他人の代弁者」の意味の初出は1540年である. さらに後年になって現在主流の「組織などの代弁者」という意味が生まれたとされる. 第2節の調査では, *N-s-man* 型複合語のうち *N* 部に名詞でない語が入った例は *spokesman* 1例のみが発見された.

OEDは *spokesman* の成立過程を, 当時存在した過去分詞形 *spoke* について既存の *N-s-man* 複合語とのアナロジーが発生したものと説明している. 本節では, 影山 (1996, 2009) が指摘した過去分詞形の属性叙述についての考え方を援用し, *spokesman* の発生メカニズムおよび *N-s-man* にまつわる語彙体系との関係を考察する.

5.1 *speak* の過去分詞形 *spoke* の属性叙述的性質

英語の動詞には過去分詞の形容詞的用法がある. 形容詞的過去分詞は通常, もとの動詞における状態変化する項 (他動詞における目的語, 非対格自動詞における主語) の結果状態について述べるとされる.

(7) *a broken glass* 「割れたガラス」

(8) *a wilted lettuce* 「しおれたレタス」

(7) ではもとの動詞 *break* の目的語に相当する *glass* の結果状態を *broken* で叙述している. 同様に (8) では *wilt* の主語 *lettuce* の結果状態を *wilted* で叙述している. (7), (8) における過去分詞の修飾対象は被影響者である.

一方, 形容詞的過去分詞を用いて動作主の項を修飾することは通常できない. しかし 影山 (2009: 8–9) が指摘するように, 英語には他動詞および非能格自動詞の過去分詞形を使い, 動作主の特性を表す用法が存在する.

(9) *a much/well/far-traveled man* 「見識の広い人」 cf. *a much-traveled road*

(10) *a well-read scholar* 「博識の学者」 cf. *a well-read book*

*6 このほか, *townspeople* 「町の人々」, *salesclerk* 「売り場の店員」, *bridesmaid* 「花嫁介添人」などの語も, $[N-s-N_H]$ の下位に属すると考えられる. ただし人を意味する語であればすべて N_H に入りうるとは考えにくい.

影山 (2009: 8–9) は用例 (9), (10) における過去分詞形について, もとの動詞によって表される行為を踏まえ, 修飾先の名詞の属性を描き出すものと説明した. たとえば (9) では「たくさん旅をする」という一連の行為の結果として「見識が広い」という属性を引き出すプロセスが機能している.

5.2 *spokesman* の定着と [N-s-man] スキーマの拡張

こうした属性叙述の考え方を *speak* の過去分詞形 *spoke* に適用すると, *speak* 「公に話す」に関連した属性を *spoke* が叙述することとなる. *spoke* の属性叙述の用例のうち, 特に「集団や組織の中で *spoke* の叙述する属性によって識別される人」を指すものは, 第3節で示した [N-s-man] スキーマ (4) との親和性が高い.

(4) $\langle [[x]_{Ni-s-[man]_{Nj}]_{Nk}} \leftrightarrow [A \text{ man}_j \text{ identified by his/her trait } Y \text{ related to SEM}_i]_k \rangle$

そこで話者は [N-s-man] スキーマのより上位に, 変項を名詞に限定しない [x-s-man] スキーマを立て, その [x-s-man] の下位において [V_{pp}-s-man] スキーマおよび *spokesman* の存在を容認していると考えられる. 以上の議論を踏まえ, レキシコンに *spokesman* が追加されたことによる [N-s-man] スキーマの拡張を図3に示す.

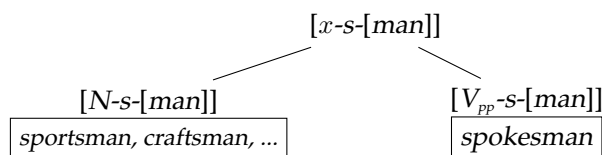


図3 *spokesman* の登録による [N-s-man] スキーマの拡張.

6 おわりに

本発表では *N-s-man* 型複合語についての考察を通じ, 構文形態論が掲げるレキシコンモデルの優位性を主張した. 具体的には, レキシコンが個別の語のみならずスキーマをも包摂した階層構造を持つことを述べた. さらに, アナロジーにより発生した例外的語形 *spokesman* も既存の *N-s-man* の形式的体系に組み込みうることを論じ, この階層構造の柔軟性について考察した.

また *N-s-man* から *N-s-woman*, *N-s-person* が新規に造られる現象においては, 抽象的単位である複合語においても, 構成部分を単独の語として分析しうることを主張した. 構文形態論は語の包括的構造を捉えながらも例外的現象に高い対応力を持ち, 英語形態論の諸問題の解決に大きく寄与するものと思われる.

辞書

OED. Oxford English Dictionary, updated July 2019, online version. <https://www.oed.com> [accessed September 2019].

参考文献

- Bergsten, Nils. 1911. A study on compound substantives in English. PhD thesis, Uppsala University.
- Booij, Geert. 2010. *Construction Morphology*. Oxford: Oxford University Press.
- 影山 太郎. 1996. 『動詞意味論』. 東京: くろしお出版.
- 影山 太郎. 2009. 「言語の構造制約と叙述機能」. 『言語研究』136: 1–34.
- Lieber, Rochelle. 2011. IE, Germanic: English. In *The Oxford Handbook of Compounding*, ed. Rochelle Lieber and Pavol Štekauer. Oxford: Oxford University Press. 357–369.
- Stahlke, Herbert F. W., Yonghong Cheng and Duck-Hee Sung. 2007. English nominalizations in /-s/. *Word* 58(1): 3–25.